

〔一般の方が

国際天文学連合京都総会

を「楽しむには？」



ご存知のように総会そのものには、招待状をもらわないかぎり、国際天文学連合会員以外の、一般の方やアマチュアの参加は原則としてできないことになっています。しかし、そこは天文学の祭典です。一般の人でも参加できるさまざまな催しが公式・非公式に企画されています。

なかでも、分野毎に開催されるアマチュアとプロの交流を目的にした会議には、その筋の方々には見逃せないミーティングになること間違いありません。ぜひ出席していただきたいものです。ヘール・ボップ彗星の興奮さめぬ彗星ファンには、会議終了後8月29日から31日に滋賀県琵琶湖プラザホテルで行われる「彗星小惑星会議1997」が用意されています。総会に参加した海外の研究者も多数流れてくる予定で、ヘール・ボップ彗星に関する最新の成果も披露されることでしょう。

木星などの惑星に興味のある人は、月惑星研究会などが中心になって有志が主催する「第22回木星会議'97 京都」が用意されています。会期中の8月23日、24日の2日に渡って、京都市内の興正会館で開催されます。木星研究の第一人者であるカリフォルニア工科大学のIngersoll教授の特別講演は必聴です。この会議の内容は

<http://www.kk-system.co.jp/Alpo/Conference97/>でも公開されており、ネット上で参加申込が可能です。

1998年から1999年にかけて活発化すると予想されるしし座流星群を控え、流星ファンにとっては、最新の研究動向が気になるころです。そういった人は、ぜひ日本流星研究会と関西天文同好会の共催による8月24日の講演会をおすすめします。講師は、IAU 22委員会副委員長、プロ・アマワー

キンググループ事務局も勤めるカナダの流星研究第一人者 Hawkes 教授の予定です。また、8月28日には、京都大学超高層電波研究センター信楽MUレーダ観測所の御協力を得て、総会参加の研究者とともに、レーダー施設の見学会およびプロ・アマミーティングが企画されています。

この他、岡山県の美星天文台では台長などが中心となってアマ・プロ交流会が企画されていたり、天文学の教育に関するミーティングが企画されていますので、ぜひ今後の天文月報の記事にも注目してください。

国際天文学連合京都総会の実行委員会としては、さらにもっと一般向け、あるいは親子向けの講演会も企画し、現在準備をすすめているところです。詳細はまだ決まっていますが、親子向け講演会「火星生命に迫る」を、8月16日に大阪市IMPホールで行う予定です。この企画は、クイズ大会や、通信による火星のオンライン映像などの出し物なども用意して、親子で楽しみながら宇宙への興味をもってもらおうというものです。また、話題のヘール・ボップ彗星の最新成果を広く知ってもらうために、IAU Comission 15 委員長である A' Hearn メリーランド大学教授をお呼びしての「彗星と地球・生命」という講演会を、8月24日に神戸西山記念会館大ホールで企画しています。このふたつは実行委員会と大阪新聞社とが主催するもので、募集その他の詳細はまだ決定されていません。なお、内容はまだ未定ですが、京都大学構内でも一般向け講演会が予定されています。

渡部潤一（一般広報担当）

問い合わせ先一覧：

★彗星小惑星会議 1997 実行委員会

〒 656 兵庫県洲本市炬口 1-3-19 中野圭一

TEL : 0799-22-3747 FAX : 0799-23-1104

★第 22 回木星会議 '97 京都

〒 607 京都市山科区音羽野田町 7-5-1011 伊賀祐一

iga@kk-system.co.jp

★流星に関する講演会／京都大学超高層電波研究センター信楽 MU レーダ観測所の見学会とプロ・アマミーティング

〒 532 大阪市淀川区三国本町 2-16-8 藤原康徳

DHB15312@biglobe.ne.jp TEL : 06-393-3525

★国際天文学連合京都総会実行委員会の催す講演会

実行委員会一般広報担当 渡部潤一

〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台広報普及室

IAU 京都総会
専用ロゴマークのデザイン

すでにお気づきの方もいらっしゃると思いますが、本連載「IAU 総会来る！」や Web ページのタイトルに使用されているのは、京都総会用に新規デザインされたロゴマークです。いくつかの候補のうち、IAU 本部とも相談の上採用されました。今後、ポスター・掲示などで積極的に利用していく予定です。月報では白黒版ですが、Web にはカラー版が掲示しており、「赤い朝日」が印象的です。

このマークは「日本での開催」をシンボル化したもので、山の端から昇りゆく日の出を意識したものです。右手の五重の塔のシルエットは寺社の多い「京都」を意識しました。これに開催地名の「Kyoto」と国際天文学連合の公式言語である英語・仏語での略称「IAU/UAI」を重ね文字で示し、総会の回数である 23 を添えました。

地図などでいろいろ想像しては見たのですが、私は京都に住んだことがないので、このような風景が本当に見られる場所が京都にあるのか、五重の塔はどこなのかなどが、わかっていません。そういう意味で心象風景ですが、ぴったりの位置があったら楽しいですね。

(LOC 広報担当 半田利弘)